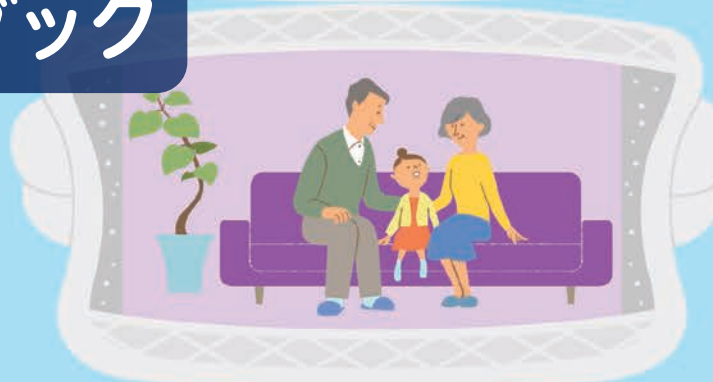




テリパラチドBS皮下注キット600 μ g「モチダ」
をお使いの患者さんへ

自己注射ガイドブック



注射の流れ

準備をする (3ページ)

Step 1 ペンキャップを取り外す (4ページ)

Step 2 注射針を取り付ける (6ページ)

新しいキットを1回目に使用するとき、最初に空打ちを行ってください。

2回目以降は、**空打ちを行わずに**注射を打ってください。

Step 3 空打ち (10ページ)

Step 4 注射を打つ (14ページ)

Step 5 注射針を取り外す (17ページ)

準備をする

本キットには28日分の薬剤が入っています。

使用を開始して28日経過した場合は、薬剤が残っていても廃棄してください。

1日に1回のみ注射し、2回以上は注射しないでください。

1つのテリパラチドBS皮下注キット600 μ g「モチダ」を他の人と共同で使用しないでください。

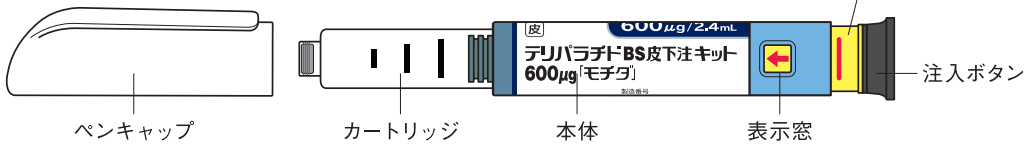
- 準備を行う前に、手を洗ってください。
- 主治医から指導された方法で注射をしてください。
- テリパラチドBS皮下注キット600 μ g「モチダ」は、使用前も使用開始後も冷蔵庫(2~8 $^{\circ}$ C)で保管してください。

準備するもの

■ テリパラチドBS皮下注キット600 μ g「モチダ」

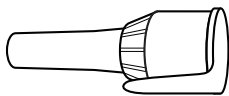


各部の名称

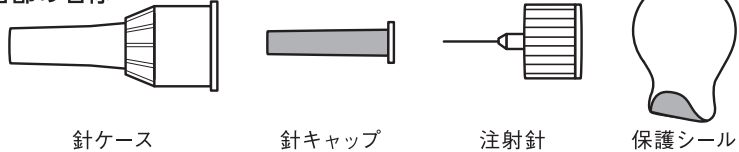


使用期限が切れていないか確認してください。また、薬液が無色透明でない場合や、浮遊物などが見られる場合は使用せず、主治医に相談してください。

■ 新しい注射針



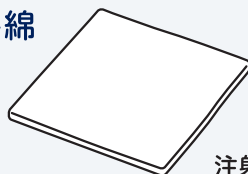
各部の名称



テリパラチドBS皮下注キット600 μ g「モチダ」は、JIS T 3226-2に準拠したA型専用注射針との組み合わせでご利用ください。(テリパラチドBS皮下注キット600 μ g「モチダ」はA型専用注射針との適合性の確認をBDマイクロファインプラス及びナノパスニードルIIで行っています。)

A型専用注射針の装着時に液漏れ等があった場合の対処方法は、主治医にご相談ください。

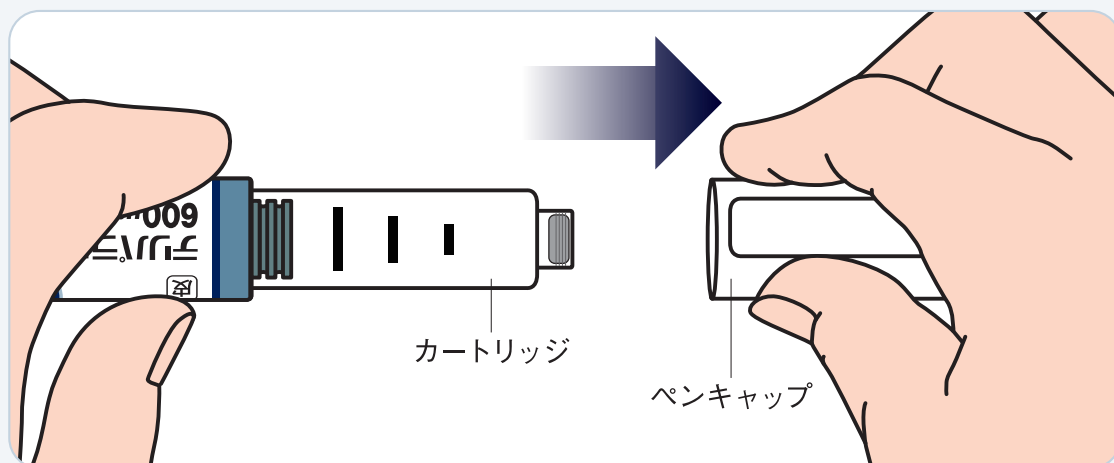
■ アルコール綿



注射針、アルコール綿は別売りです。キットの中には入っていません。

ペンキャップを取り外す

- ① ペンキャップは、回さずまっすぐ引っぱってください。
引っぱるときに注入ボタンに触れないように注意してください。



薬液が無色透明でない場合や、浮遊物などが見られる場合は使用せず、主治医に相談してください。

- ② カートリッジ先端のゴム栓部分をアルコール綿でふきます。



カートリッジ先端以外の部分をアルコール綿でふかないでください。

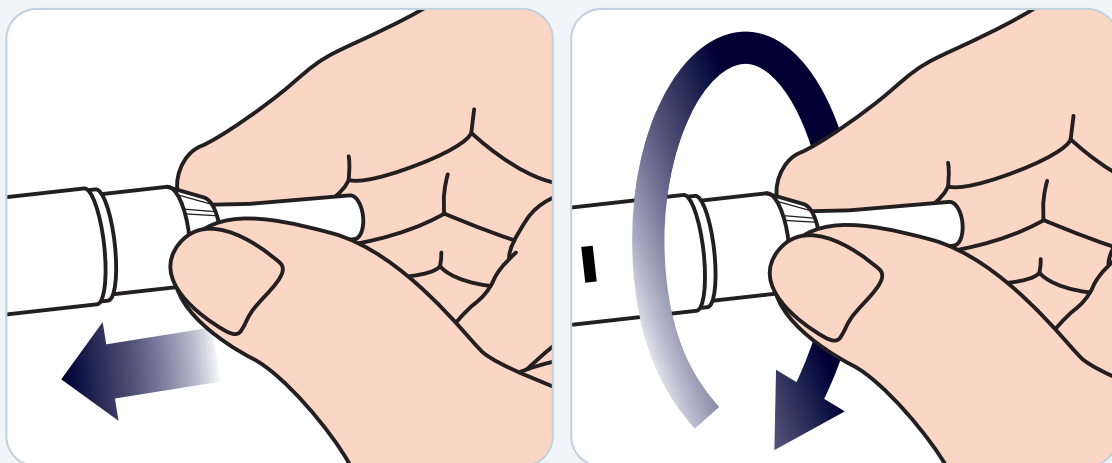
注射針を取り付ける

- ① 針ケースの保護シールをはがします。



注射針は毎回新しいものを使用してください。

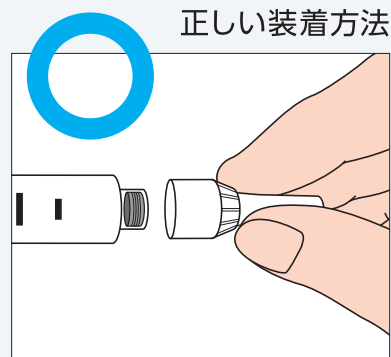
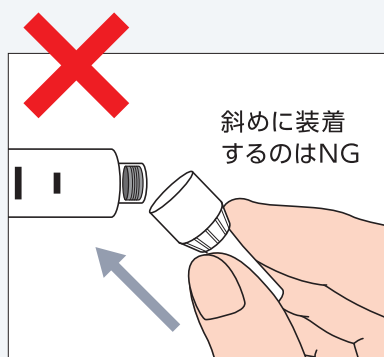
② 針ケースをカートリッジに取り付けます。



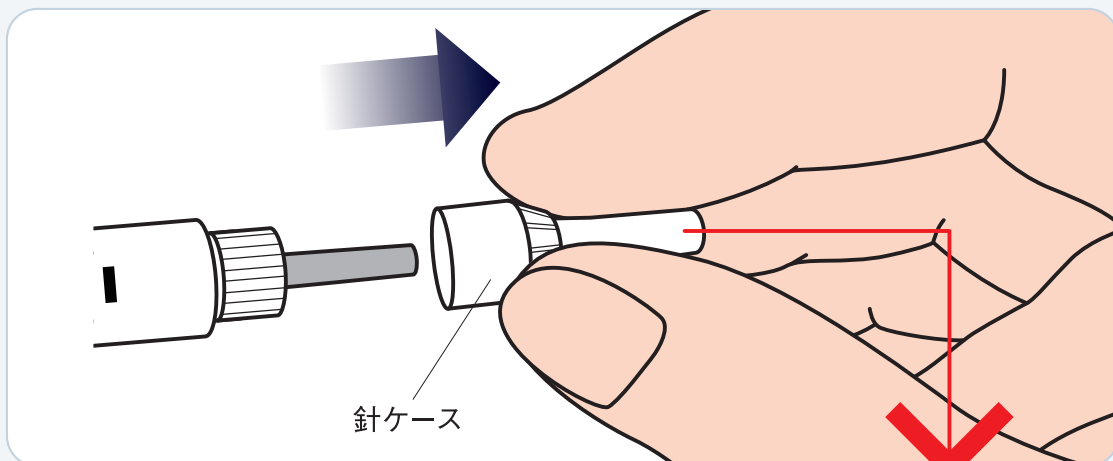
針ケースをまっすぐ押し込み、回転が止まる場所まで右に（時計回りに）回して取り付けてください。

きつく締めすぎると取り外しができなくなるため、ご注意ください。

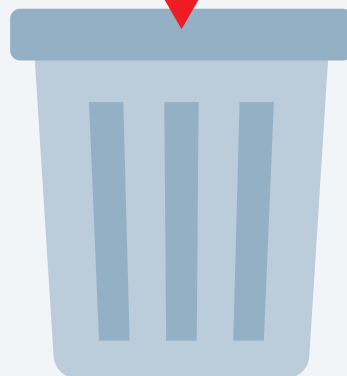
針ケースを斜めに装着すると、正しく注射できません。



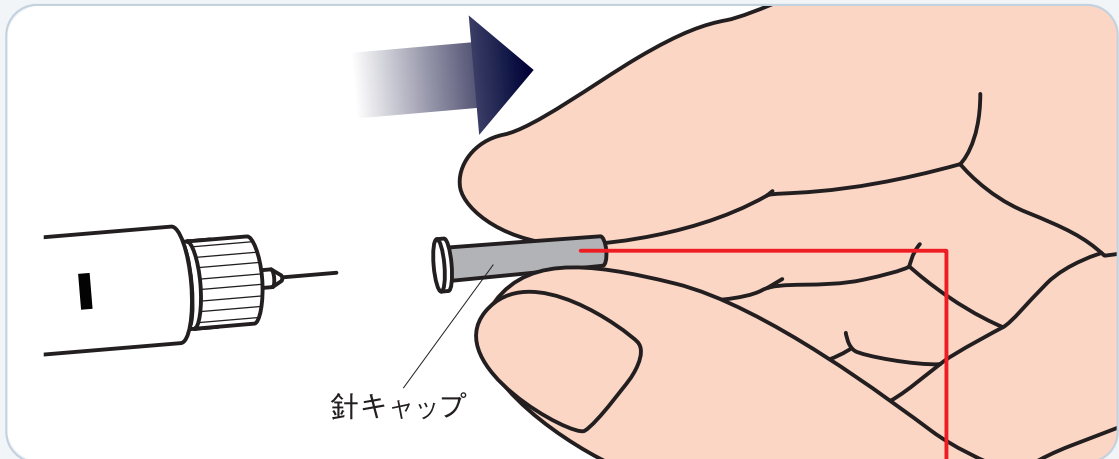
③ まっすぐ引っぱって、針ケースを取り外します。



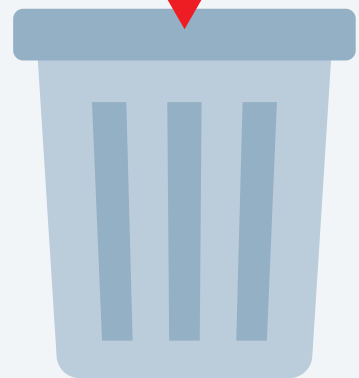
取り外した針ケースは後で使うので、捨てないでください。



④ 針キャップを取り外します。



取り外した針キャップは
プラスチックゴミとして捨ててください。



空打ち(1回目のみ)

新しいテリパラチドBS皮下注キット600 μ g「モチダ」を最初に使用するとき、正常に動くことを確認するために空打ちを行います。

新しいテリパラチドBS
皮下注キット600 μ g「モチダ」を
使い始めるとき(1回目)

2回目以降

注射針の取り付け

注射針の取り付け

空打ち

空打ちは
行いません。

注射

2回目以降も空打ちを行うと薬液がなくなり28日間使用できなくなるため、空打ちしないでください。

注射

注射針の取り外し

注射針の取り外し

2回目以降の注射の場合は、

14ページの

Step 4

注射を打つ

に進んでください。

注意：空打ちは最初の1回だけ行います。2回目以降は行わないでください。

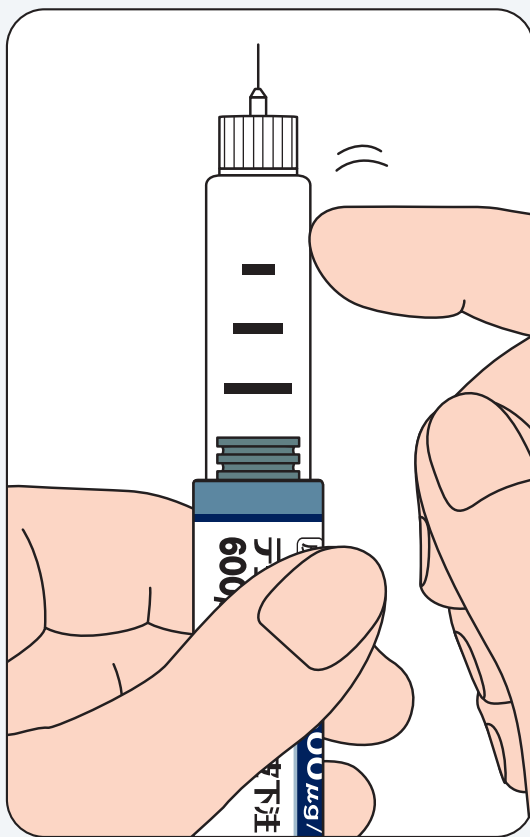
- ① 注入ボタンを「カチッ」という音がして止まる位置まで引っぺります。



注入ボタンを引っぺり終わると表示窓の赤矢印の向きが逆方向に変わります。また、黄色いシャフトの付け根部分に赤い線が見えていることを確認してください。

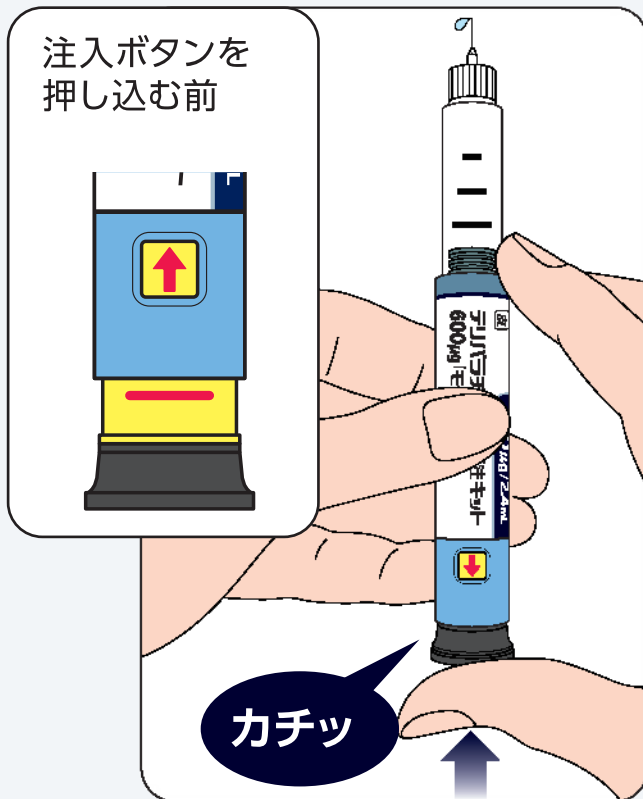
赤い線が見えていない状態で注入ボタンを押すと、薬液を正しく出すことができません。

- ② 針を上に向けて、指でカートリッジに軽く振動を加え、カートリッジ内の気泡を先端部に集めます。



注意:空打ちは最初の1回だけ行います。2回目以降は行わないでください。

- ③ 針を上に向けたまま注入ボタンを「カチッ」と音がするまで押し込み、針先から薬液が流れ出るのを確認してください。



注入ボタンを押し込んだ後、赤矢印の方向が変わり、黄色いシャフト部分が見えなくなったことを確認してください。

薬液が勢いよく飛び散ることがあるので、目や口に入らないようにしてください。

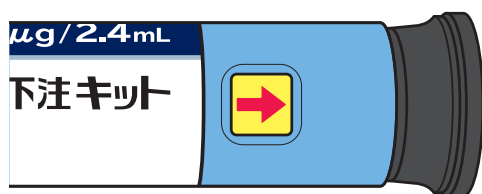
これで空打ちは完了しましたので、28日間使用することが可能です。

別の新しいテリパラチドBS皮下注キット600 μ g「モチダ」を使用する時も、最初に空打ちを行ってください。

注射を打つ

- ① 注入ボタンを「カチッ」という音がして止まる位置まで引っぺります。

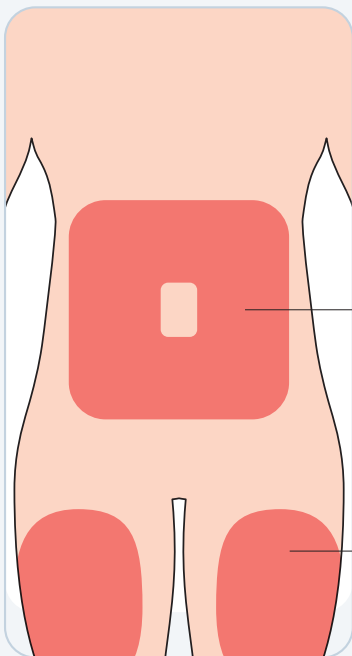
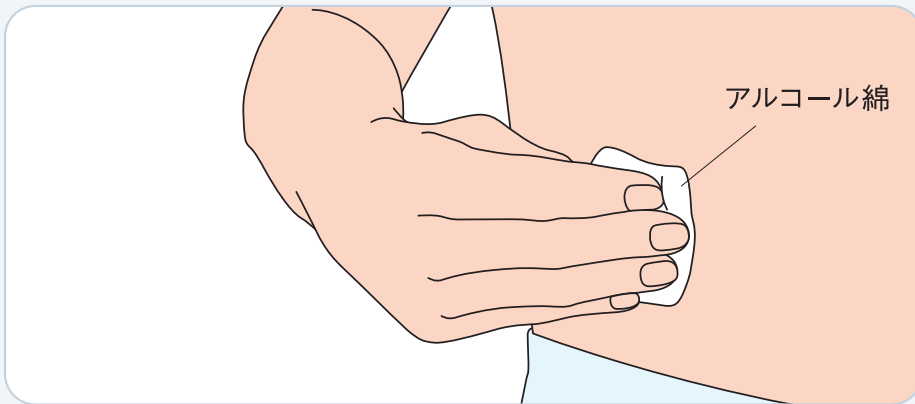
注入ボタンを引っぺる前



注入ボタンを引っぺり終わると表示窓の赤矢印の向きが逆方向に変わります。また、黄色いシャフトの付け根部分に赤い線が見えていることを確認してください。

薬液を使い切ると、注入ボタンを引っぺれなくなります。新しいテリパラチドBS皮下注キット600 μ g「モチダ」に交換してください。

- ② 注射する場所(お腹または太もも)を消毒します。
主治医に指示された方法で注射してください。



● 注射できる部位

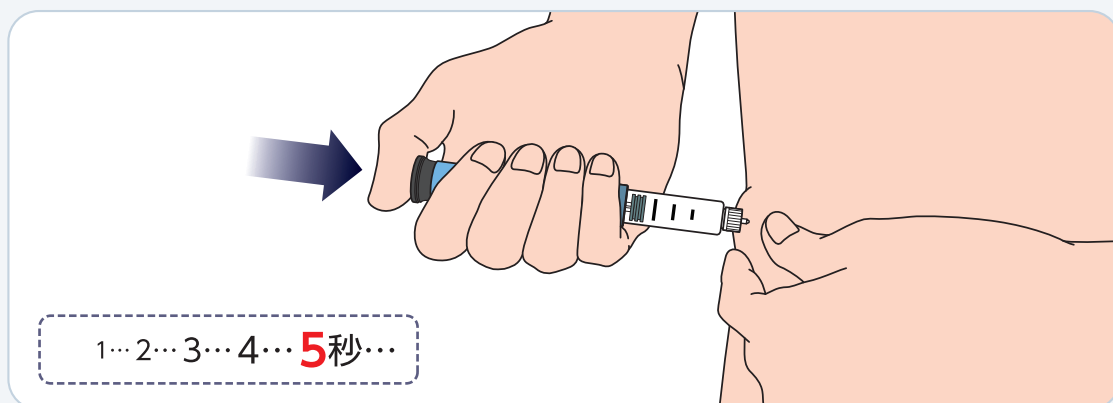
(注射する部位は主治医の指示に従ってください。)

お腹

太もも

注射するごとに2~3センチずらしてください

- ③ 注射針を注射部位にまっすぐに押し当てて、注射針を差し込み、親指で注入ボタンを「カチッ」と音がするまでゆっくり押します。



5秒以上たったら、注入ボタンを押したまま注射針を皮膚から引き抜きます。

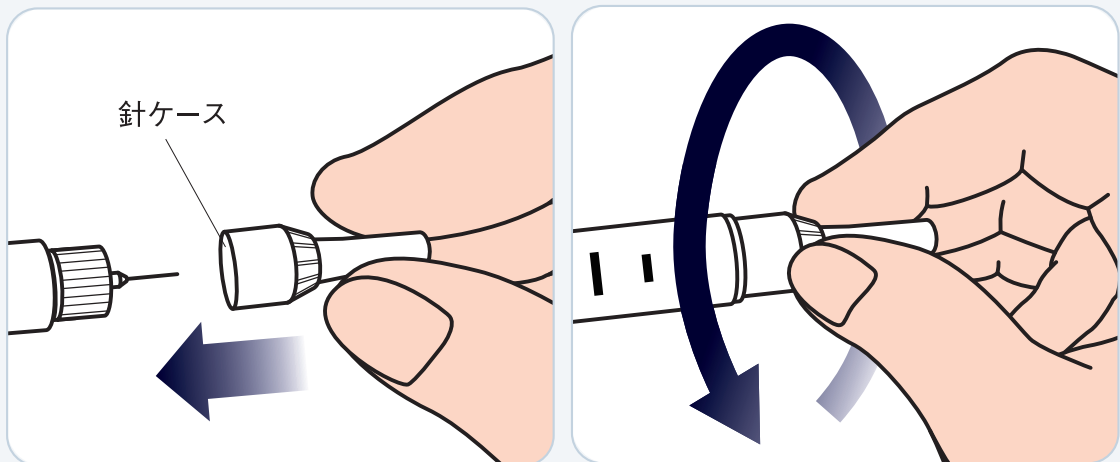
注射針を抜くまでは、押している指の力は入れたままにしてください。



注射終了後: 注射針を皮膚から抜いたところで、表示窓の赤矢印の方向が変わり、黄色いシャフト部分が見えなくなったことを確認してください。

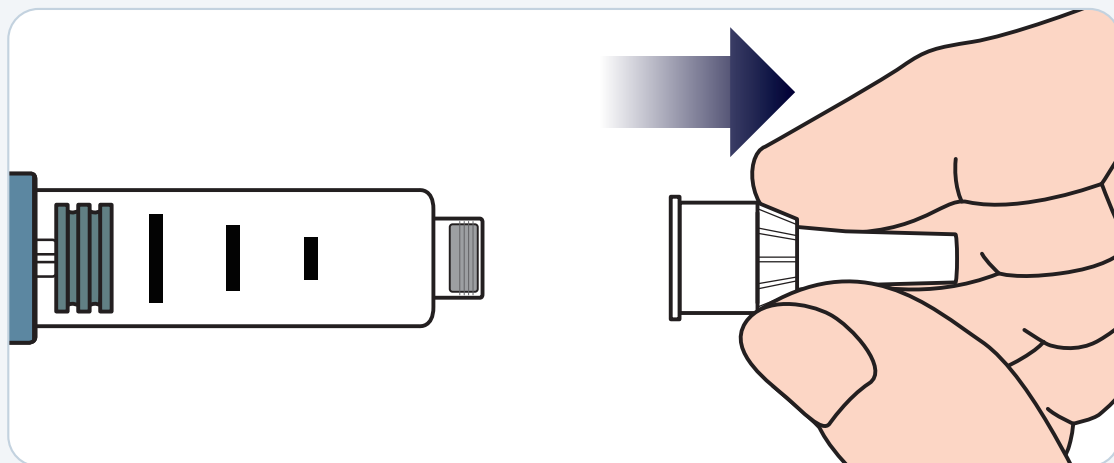
注射針を取り外す

- ① 取り外した針ケースを差し込んで左に（時計と反対回りに）回します。



主治医の指示に従い、指に注射針をささないよう慎重に針ケースを取り付けてください。

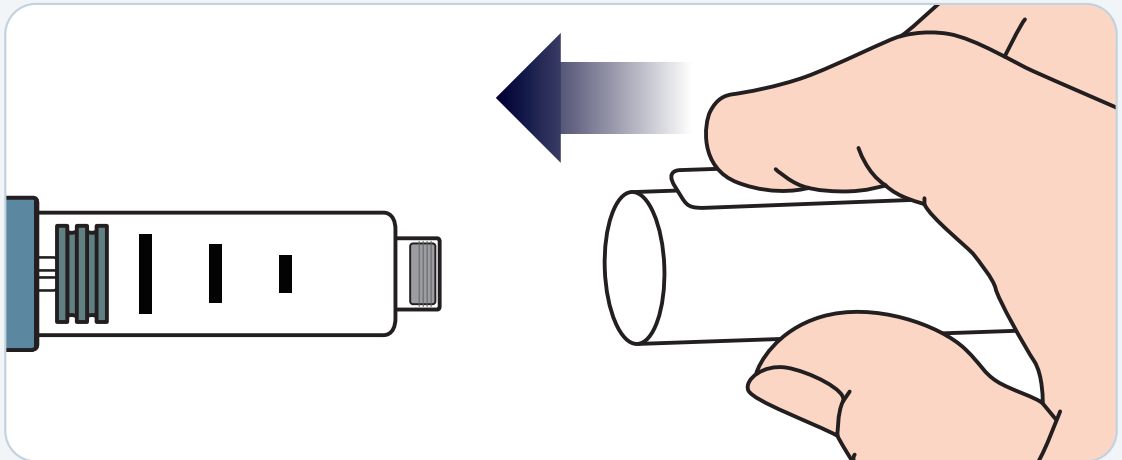
- ② 針ケースがゆるんだら、針ケースの太い部分を持って、まっすぐ引き抜きます。



注射針が外れなかったときは、再度針ケースを差し込んで、力を入れて押し込みながら回してみてください。

**使用済みの注射針は、
主治医・医療従事者の指示に従って廃棄してください。**

- ③ 使用後はすぐにペンキャップを取り付けて、
冷蔵庫で保管してください。



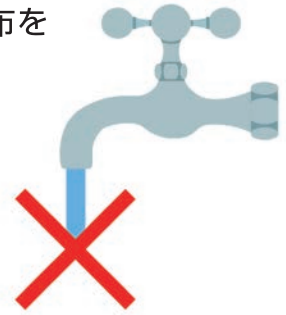
注意：注射針を付けたまま
保管しないでください。



手入れと保管方法

手入れ

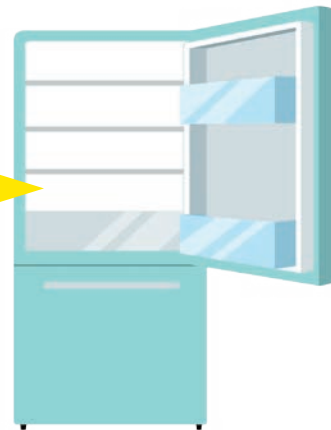
- 本体を拭く場合は、水で濡らして固く絞ったやわらかい布を使用してください。
- 水につけたり、水をかけたりしないでください。また、アルコールは使用しないでください。



保管方法

- 使用前も使用開始後も冷蔵庫（遮光、2～8℃）で保管してください。
- 凍結させないように注意し、冷凍庫には入れないでください。
- 薬液が凍結した場合は廃棄して、新しいテリパラチドBS皮下注キット600 μ g「モチダ」を使用してください。
- 注射針を取り外し、白いキャップを取り付けた状態で保管してください。
- 冷蔵庫の外に出っぱなしにしてしまったときは、冷蔵庫に入れ直し、主治医にご相談ください。
- 子供の手の届かないところに保管してください。

2～8℃
~~冷凍庫~~



注意事項

- テリパラチドBS皮下注キット600 μ g「モチダ」は1本が28日分です。使用を開始して28日経過した場合は、薬剤が残っていても廃棄してください。
- 薬液を、他の注入器等へ移さないでください。
- 使用前に、正しいキットであること、使用期限内であることを確認してください。
- キットや注射針に破損や異常が認められた場合、使用しないでください。薬液が無色透明でない場合や、浮遊物などが見られる場合は主治医にご相談ください。
- 毎回、新しい注射針を使用してください。
- 注射中、1回から数回カチカチという音が聞こえることがありますが故障ではありません。
- 1つのキットを他の人と共同で使用しないでください（注射針を取り替えた場合でも、感染症の原因になる可能性があります）。
- 目の不自由な方がご使用になる場合は、正しい使用法の指導を受けた方のサポートのもとで注射を行ってください。
- 新たに使用を開始する際は、初回のみ空打ちを行ってください。
- 空打ちまたは注射を行うとき以外は、注入ボタンを引っ張らないでください。

廃棄方法

注射針とキット本体の廃棄方法

- 使用済みの注射針とキット本体は、主治医・医療従事者の指示に従って廃棄してください。
- キット本体を廃棄する際は、必ず注射針を取り外してください。

使い方について

● 注射時のトラブルの対処法

Q 注入ボタンを押し込んだ時に、黄色いシャフトが見えたままになっています。どうすればよいですか？

A 注射針を取り外し、新しい注射針を取り付けて空打ちを行ってください。それでも黄色いシャフトが見えたままになっている場合には、主治医にご相談ください。

- その日は2回目の注射を行わず、空打ちをして翌日の投与から再開してください。
- このようなトラブルを避けるために、毎回、新しい注射針を使用するようにしてください。また、注射を打つ際には、注入ボタンを押したまま5秒以上待つようにしてください。

Q カートリッジの中に気泡があるのですが、どうすればよいですか？

A 小さな気泡であれば、薬剤の投与量や健康への影響はありません。ただし、異物が混入している場合は注射を控えて、主治医にご相談ください。

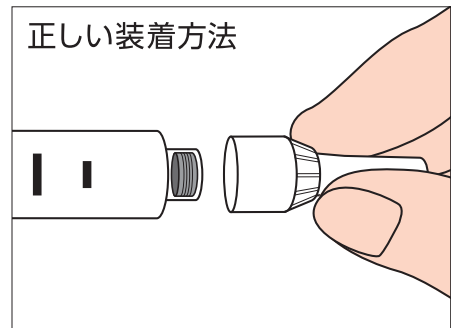
Q

注入ボタンが押せません。どうすればよいですか？

A

注射針を取り外し、キットに装着する側の針が折れ曲がっていないかを確認してください。注射針が正しく装着されていないと、注入ボタンが押しにくくなります。(注射針をつけずに注入ボタンを押した場合も注入ボタンが押しにくくなります。)

注射針を取り付けていなかったり、取り外した針が折れていた場合は、本冊子6ページ以降(Step2:注射針を取り付ける)の手順に従い、新しい注射針を取り付け、投与してください。

**Q**

**注入ボタンを引っ張り出せなくなりました。
どうすればよいですか？**

A

薬剤を使い切ると注入ボタンが引っ張り出せなくなります。主治医にご相談の上、新しいテリパラチドBS皮下注キット600 μ g「モチダ」に交換してください。このような状態になった場合は、仮にカートリッジ内に多少薬剤が残っていても、正しく投与できる薬剤量がないことを示していますので無理に引っばらないでください。

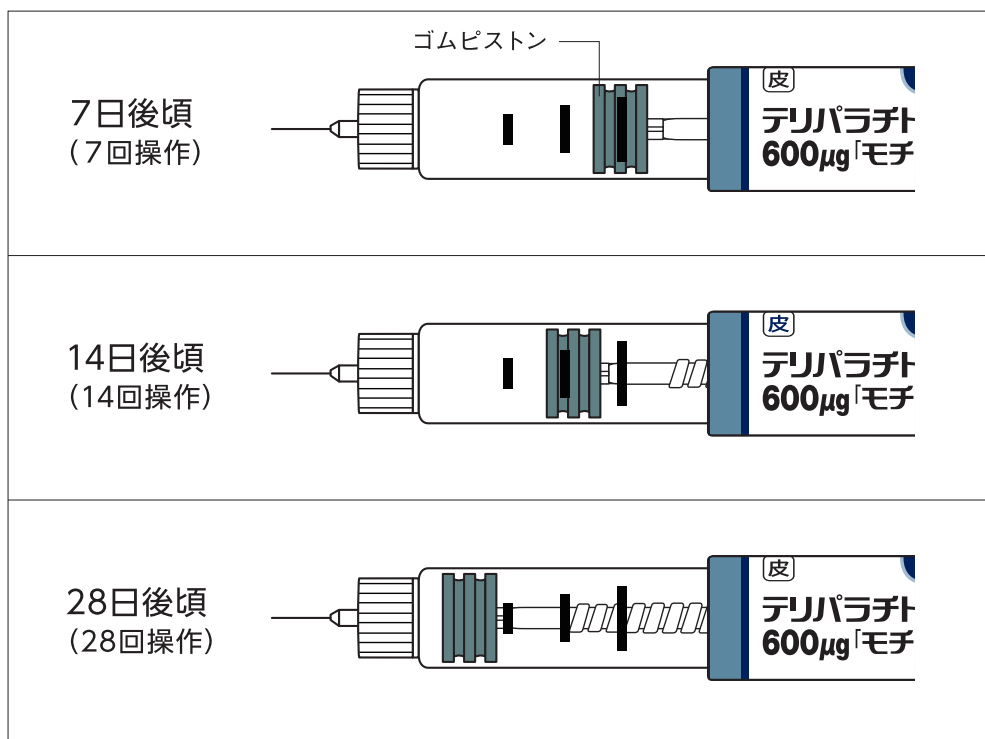
使い方について

●薬液残量の目安

Q 薬液の残量はどのように確認できますか？

A 投与を開始するとゴムピストンがカートリッジの先端方向に徐々に移動します。ゴムピストンが黒い3本の線のどの位置にあるかで、およその使用期間を確認することができます。

投与開始からのゴムピストンの位置



あくまでも目安として参照してください。

● 注射針の取り扱い方法

Q なぜ毎回、新しい注射針を使用する必要があるのですか？

A 感染を予防し、液漏れ、空気の混入、注射針の目詰まりを防ぐためです。必ず注射のたびに新しい注射針を使用してください。ただし、初回の空打ちの後に注射をする時は、注射針を交換する必要はありません。

Q 使用済みのテリパラチドBS皮下注キット600 μ g「モチダ」および注射針は、どうすればよいですか？

A 主治医・医療従事者の指示に従って廃棄してください。また、注射針は、注射終了後、速やかに取り外してください。

病気とお薬について

Q

骨粗鬆症はどんな病気ですか？

A

骨粗鬆症は、骨がスカスカになってもろくなり、骨折しやすくなる病気です。骨粗鬆症になると、転んで尻もちをつくなど、弱い衝撃が加わっただけで骨折することがあります。背骨や太ももの付け根、手首などの骨折が多く起こります。

背骨の骨折では、背骨がつぶれたり、変形したりすることで背中が曲がって背が縮み、背中や腰の痛みが起こったり、内臓に悪い影響が出る場合があります。

また、足の付け根を骨折すると、それが原因で寝たきりになることもあります。

Q

テリパラチドBS皮下注キット600 μ g「モチダ」には、どのような効果があるのですか？

A

骨の表面には、古い骨を壊す「破骨細胞」と新しい骨をつくる「骨芽細胞」が存在しており、破骨細胞と骨芽細胞がバランス良く働くことで骨の強度が保たれています。しかし、そのバランスが崩れ、骨芽細胞の働きが弱まって破骨細胞の働きが強くなると、新しい骨が作られなくなり、骨が壊されて、もろくなってしまいます。

テリパラチドBS皮下注キット600 μ g「モチダ」は、骨芽細胞を活性化して、骨密度を増やし、もろくなった骨の再構築を促進して骨を折れにくくします。

体調の変化があったときは

- **以下のような症状に気づいたら、投与を中止し、すぐに主治医にご連絡ください。**
 - ・じん麻疹
 - ・血圧低下、意識がうすれる
 - ・投与するといつも動悸を感じる
 - ・呼吸困難
 - ・顔、唇、舌、のどの腫れ
 - ・吐き気、嘔吐、ひどい便秘、目が覚めない、脱力が起こる
- **テリパラチドBS皮下注キット600 μ g「モチダ」による治療で以下のような副作用が起こる可能性があります。**
 - ・頭痛
 - ・悪心
 - ・筋肉がピクピクする、筋肉のけいれん、筋肉の痛み
 - ・食欲不振
- **起立性低血圧、めまいや意識消失が起こることがあります。**
 - ・転倒の危険がありますので、十分に注意してください。
 - ・高所での作業、自動車の運転等危険を伴う作業に従事する場合には注意してください。
 - ・高血圧治療中の方や低血圧を指摘されたり、めまい、立ちくらみ、動悸等の症状がみられたことのある方は特に注意してください。
 - ・ショックや、一過性の急激な血圧低下に伴う意識消失があらわれることがあります。この薬の注射後30分程度はできる限り安静にしてください。また、血圧低下、めまい、立ちくらみ、動悸（どうき）、気分がすぐれない、吐き気、顔面が蒼白になる、冷や汗が出るなどがあらわれた場合は、症状がおさまるまで座るか横になってください。その後、主治医にご連絡ください。

テリパラチドBS皮下注キット600 μ g「モチダ」投与中・投与終了後にかかわらず、骨肉腫と診断されたら、この薬の投与を受けている（受けていた）ことをすぐに主治医にご連絡ください。

自己注射の方法について
動画でも紹介しています

アクセスはこちら▶



https://www.mochida.co.jp/ter_bs/guide/